



報道機関各位
2008年05月13日
株式会社サーベイリサーチセンター

「茨城県沖の地震についての調査」の調査結果について

株式会社サーベイリサーチセンター（本社：東京都荒川区、代表取締役：藤澤士朗）は、5月8日（木）に発生した茨城県沖の地震について、モバイルリサーチモニターを対象にアンケート調査を実施しました。このほど調査結果がまとまりましたのでお知らせ致します。

■調査の概要

- ・調査地域 関東1都6県
- ・調査対象 「クリップアップエクスプレス」モニターの20歳以上の男女個人
- ・調査方法 モバイルリサーチ
- ・有効回収数 350サンプル（都県各50サンプル）
- ・調査期間 平成20年（2008年）5月9日（金）～ 5月11日（日）

■調査の結果（概要）

[地震に関する情報の入手]

- ・地震発生直後、情報入手したのは6割（62.3%）。
- ・入手媒体は、「テレビ（NHK）」（44.0%）、「テレビ（民間）」（22.0%）、「携帯電話の情報サービス」（22.0%）の順であった。

[緊急地震速報の入手]

- ・緊急地震速報を入手したのは4人に1人の割合（24.0%）。
- ・入手媒体は、「テレビ（NHK）」（46.4%）、「テレビ（民間）」（33.3%）、「携帯電話の情報サービス」（11.9%）の順であった。
- ・緊急地震速報を入手して、「新たな別の地震の揺れが来ると思った」が2割（20.2%）。
- ・緊急地震速報を入手して、「何もしなかった」が過半数（52.4%）。

[緊急地震速報の信頼度]

- ・緊急地震速報の信頼度は、「信頼できる」と「まあ信頼できる」との回答を合わせると6割台半ば（66.9%）。ただし、「信頼できる」は1割に満たず（8.9%）、積極的な信頼層は少ない。

[緊急地震速報の契約サービス]

- ・緊急地震速報を受信するサービスに契約していたのはわずか5.4%。内訳としては、「携帯電話」（78.9%）、「パソコン」（21.1%）、「専用端末」（15.8%）、「CATV」（10.5%）の順であった。

※クリップアップエクスプレス（Clip Up Express）の概要（URL：<http://clue.ne.jp>）

インターネット接続型携帯電話を保有する方を、リサーチ専用パネルとして保有。携帯電話を利用して、アンケート調査の依頼から回答までを行う。モニター数は、2008年2月12日現在で20,614名。

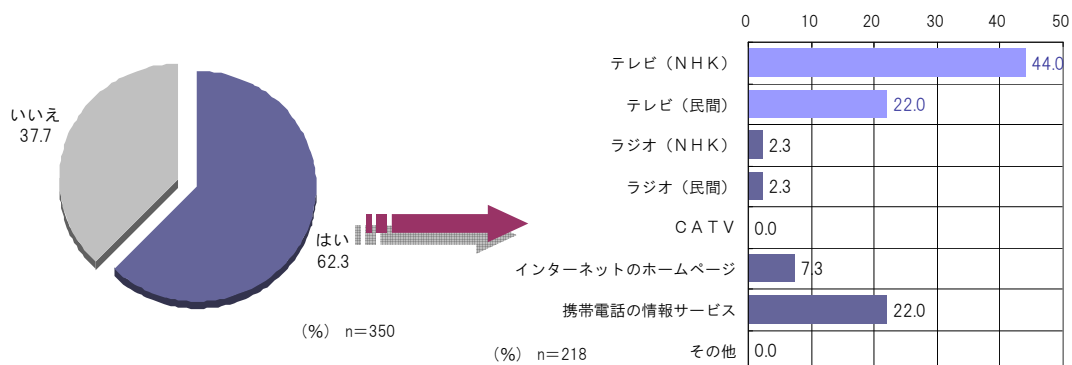
携帯電話のパーソナル性、モバイル性を活かし、より早く、よりリアルな調査結果を得ることのできる調査ツールとして、市場の拡大を狙う。マルチキャリアに対応。

また、コンサート会場やスポーツ施設などに集まる方に対しアンケートを行う「mgate」（エムゲート）も提供している。

■お問合せ先

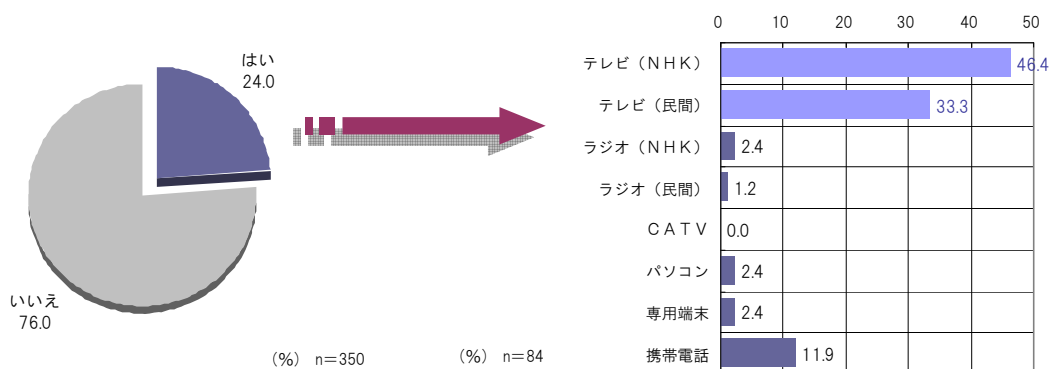
株式会社サーベイリサーチセンター 社会情報部
〒114-0014 東京都北区田端一丁目25番19号 サントル田端1丁目1階
TEL：03-5832-7061 FAX：03-5832-7060
担当者：中島良太（naka_r@surece.co.jp）、藁谷峻太郎（wara_s@surece.co.jp）

■地震に関する情報（入手の有無／入手経路）

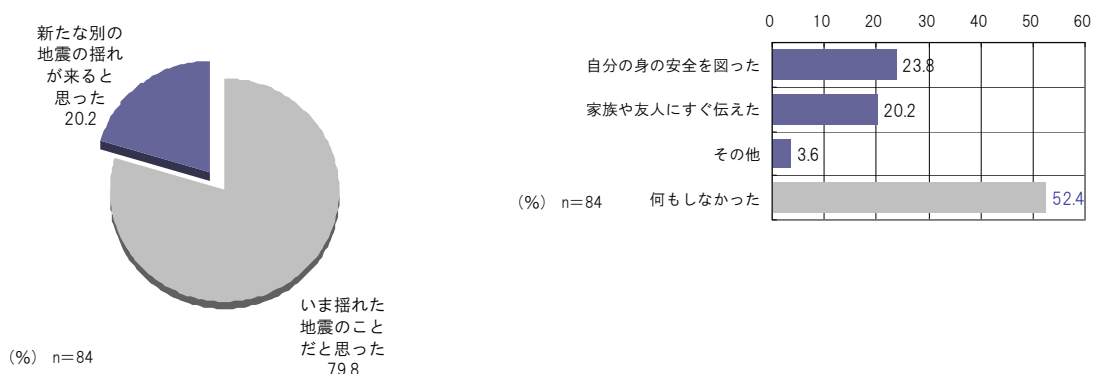


地震の発生が深夜にもかかわらず、地震発生直後、6割が地震に関する情報を入手していた。入手経路としては、7割弱がテレビであった（「テレビ (NHK)」44.0%、「テレビ (民間)」22.0%）。

■緊急地震速報（入手の有無／入手経路／地震理解／対応行動／信頼度）

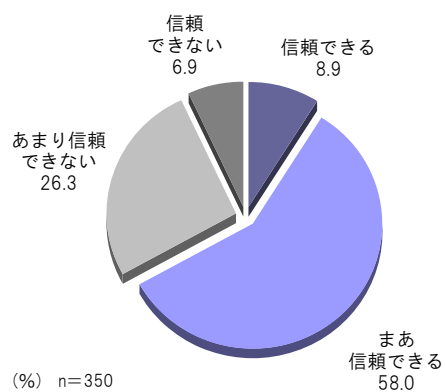


緊急地震速報は4人に1人が入手していた。入手経路はほとんどがテレビで、入手した人のうち8割弱を占めた（「テレビ (NHK)」46.4%、「テレビ (民間)」33.3%）。「携帯電話」は1割強であった。



今回の地震で緊急地震速報が発表されたのは、地震発生後の午前1時46分32秒であったが、入手した際、「新たな別の地震の揺れが来ると思った」人が2割いた。

また、入手後の行動では「何もしなかった」が過半数を占めた。「自分の身の安全を守った」「家族や友人にすぐ伝えた」は2割程度であった。



緊急地震速報の信頼度は、「まあ信頼できる」(58.0%)が最も高く6割弱を占めるものの、「信頼できる」はわずか8.9%であり積極的な信頼層は少ないと言える。